

ぶらっと山歩（さんぽ）

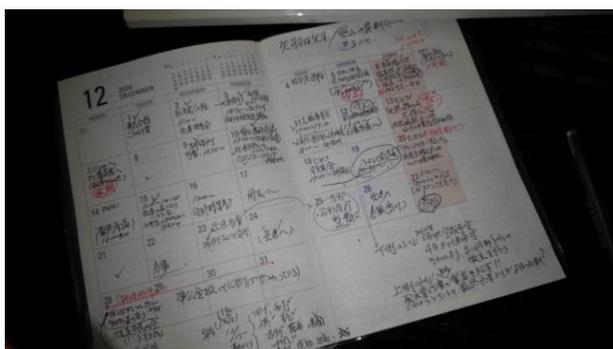
（待ちに待った？ 年末寒波！！）

文と写真：吉野会長

【12月31日】

2020年11月から師走最終週までの多忙さは、後期高齢者の御身には流石に厳しいものがあった。コロナ禍による自粛の反動による山行か？それとも支部企画でのミニハイクなどで山が賑わったのかは別として、多くの会員諸氏による山行がなされ、2021年会報新年号の紙面はかつてない数の原稿で溢れた。名刺広告があったとしても総ページ108Pは歴代1位のページ数会報となったのである。

一方、コロナ禍によるマイナス影響は吾輩にのしかかり、例会中止や変わる企画立案、新たな模索の会議や打ち合わせ・・・等々で、息の抜く間の無かった50日間であった・・・



2020年11～12月、予定表はピッシリでした



再度支部/流 正弓氏の表紙絵の2021・新年号

年も押し詰まった大晦日、前々日からの寒波によって六甲山がうっすらと雪化粧した。いつもの年の大晦日なら1年の内で自分の一番ゆ

ったりと安らげる日である。奥方が数日前より準備にかかってくれている「煮しめ」を肴に、昼からお酒を頂き、うたた寝をした後、年越しそばを食べて早々と横になるのであるが、今年は違った。白いものを見たら、居ても立ってもおられない！愛用の鋏付作業用長靴を手提げに入れ、朝食もそこそこに飛び出した・・・

新神戸駅から谷上までの運賃は昨年6月より北神急行から市営地下鉄北神線となり、運賃が280円と今までの約半額となった。加えて後期高齢者はその半分なので140円で乗れるという大変有難いことになっている。

有馬温泉街はほとんど人影も無く、早足で通り過ぎた。長い間通行止めになっていたロープウェイ駅前の道も開通しており、快適に歩ける。湯槽谷との分岐に差し掛かりさて？・・・久しぶりに湯槽谷峠に登り、有馬三山路から極楽茶屋へ・・・と思って、長靴に履き替えた。



湯槽谷への入口付近

よく見ると紅葉谷側へは足跡がくっきりとついているが、こちらは未だ誰一人入っていない。僅かの積雪だが大変気分が良い。堰堤を超えしばらく進んだ所で気が変わった。1月の例会に予定している「氷瀑の滝巡り」の下見がてらに滝群の凍結具合を確認しておくことにし、分岐まで引き返した。・・・

七曲滝へ行くかかっての道は危険な通路として未だに木の柵で通行不可としてはいるが、氷瀑見学をしたいハイカーは頓着なく入っている。古い道は一部が崩落したままの状態なので巻道を通り谷へ降りる。しかし、何れ滑落者が出て大ケガ、又は死亡事故につながる恐れがあるので十分注意を要する場所だ。・・・

この日の七曲滝は一部のみ凍結しているだけで、氷瀑には程遠いものであった。



白と黒のシルエットが美しい、紅葉谷のブナの大木



七曲滝を後にし、**百間滝**・似位滝へとも思ったが、近年はかつての様なアイスクライミングが可能な程凍ることも無く、下る斜面の崩壊等で通行不可のトラロープが張られていることもあって、滝へ下るのは止めた。・・・

紅葉谷は六甲の北斜面なので登るにつれ積雪が増し、下山してくるハイカーもいなく、極楽茶屋までは雪の静かな六甲山を楽しむことが出来た大晦日であった。・—・—・—・—・—・—・

【1月2日】

T氏が手配していた青春18キップの1枚を分けてもらい、恒例の比良山地へぶらっと山歩に出かけた。山科のトンネルを抜け堅田を過ぎると車窓からは比良の山々が目に飛び込んで来る。年末寒波のおかげ?で、比良駅に近づくにつれ山々が纏った純白のドレスは裾野の田畑までも覆っていた。



比良駅から**釈迦岳**を望む



農道に描かれた車の轍（わだち）



雲間にうっすらと顔をみせた**堂満岳**



どっしりと腰を据えた**蓬莱山・打見山**方面

比良駅で降りたのは、たった二人。一人は地元のご婦人らしく、改札口を出た所で迎えの車に乗って走り去った。・・愛用の長靴に履き替え、正面に鎮座する天満宮めざして歩き始めた。左右に広がる真っ白な田畑は、新年の朝日を浴びて眩しく輝いている。農道を走ったのか、車のわだちが黒くレールのように描かれている。

駅の東側からまっすぐに伸びた車道に沿ってゆっくり歩くこと12～3分、正面に**比良天満宮**（祭神は菅原道真）をお祀りしている鎮守の森に着く。この森には樹下神社（じゅげじんじゅ）もあり、仲良く鎮座している。境内には天満宮の神使（祭神の使者）とされている、牛の大きな石像があるので今年の干支に挨拶を済ませ、イン谷口への登山道に入って行った。



未だスクッと立っている古参の給水塔

湖西道路から繋がる志賀バイパスの降下を潜り、少し入ると見慣れた古参の給水塔が迎えてくれる。撤去されずにスクッと立っていると、何故かホッとする。ここまで来るとすぐに思い出すのは、イン谷口にあった小屋のおやじさんだ。正月2日に会って言葉を交わし、下山を待っていて、一杯飲んで他愛のない山談義をして失礼する。ある時からは小屋のすぐ裏山で栽培していたシイタケを分けて下さり、その大きく肉厚のあるシイタケのとりこになって、毎年楽しみに訪ねたものだ。・・・あのおやじさん、天国へ旅立ってもう何年になるやろか？

・・・そんなことを思いながら歩いていると、バス停であるイン谷口(小屋前跡地)に着いた。どうせ昼前後には下山し、楽しみにしている温泉へ行くつもりなので、登山ルートは久しぶりに「雪の大津ワングル道」へ足を踏み入れて、途中まで行って見ることにした・・・。

小屋跡から北へ、ものの20~30m程上がった所から右の谷を渡り入って行く。目印なのか、雪のミニかまくらが目を引いて容易に解った。



車で遊びに来ていた親子の作品？

真新しい登山届のボックス脚立があったが、正面谷ルートにある管理小屋で投函しておいたのでそのまま進んだ。・・・ルート上に足跡があるも、すぐに積雪量が増してきた。このルートは釈迦岳へ突き上げるルートで、イチョウガレという難所が待ち構えており、いくら時間に余裕があっても、後期高齢者が積雪のこのルートにチャレンジし、完踏するのは無理な話である。



ワカンが必要になってきたワングル道

40年も前であれば60~70センチの積雪をラッセルし、ピッケルを駆使して攀じるのだが！なんて思う間もなく、引き返すことにした！！

管理小屋で登山届に書いた登山ルートを書き直し、通いなれた？正面谷をゆっくり、のんびり登ることにする・・・



大山口で一人だけのコーヒータイム

こちらのルートは幕営組が山上で新年を迎えるために入って行ったのか、ワカンなどで踏みしめてくれており、鉋付の長靴でも結構歩き易い。・・・ダケ道への分岐である大山口で、ワングル道で一汗かいた疲れを癒すため河原の手前でコーヒータイムとした・・・。二人の若者が前を通り過ぎ、危なっかしい足取りで河原を渡ったが、それから先へ進まない。どうもダケ道ルートをよく知らない様子だった。聞いてくれば、青ガレルートへ行かずに、ダケ道からカモシカ台ぐらいままで同行してもよいが・・・と思っていたが、こちらを見るだけで、腰を下ろした。こちらはかまわず腰を上げて、青ガレルートへ向かう。・・・堂満東稜道の東斜面が迫って来るにつれ急登となり、積雪も徐々に増えて来た。



堂満東稜尾根の東斜面側が迫ってくる

谷に沿ってついている雪道をグングン進み、一気に登ると旧道と出会う。すぐに堂満東陵ルンゼに入る堰堤下に出て、もう少しで青ガレだ。



勾配キツイが気持ち良い雪道

大津ワングル道へ入るといふ余分な事？をして時間を費やしたため、昼を少し過ぎた。・・折角来たのだから、青ガシを登って途中から琵琶湖遠望とシャレ込もう！・・と思い、雪の岩場を攀じる。・・青空と白い雲！空気が殊の外うまい！！・・マスクを外し、思い切り深呼吸した！！・・テルモスの湯をそのまま飲み、甘納豆をほおばった。コロナ??どこの話??



青ガシの途中から琵琶湖遠望

正月から、自分だけこんなえ～めしてええんかいな??・・奥方もさることながら、500人以上おられる会員さんに悪いな～！！自肅もせんと、え～かいな！！・・と一瞬頭をよぎったが、下山の緊張感がそんな思いを吹っ飛ばしてしまっていたのでした。・・

そんなこんなで、後ろめたさを感じたのか、今回は楽しみにしていた温泉・比良トピアへ行くのは止め、駅への道をトボトボと歩いたのでした。



上・乗客は私一人！ 下・一人だけの打ち上げ！



・—・—・—・—・—・

後記

本文を書き終え、早いとこ広報に送らねば！と思っていた翌日のK朝刊の「正平調」に書かれていた文が、コロナ禍のこの時代、正に私への戒めのものであったのでは？と思い、ご披露いたしておきます。

「天下の憂いに先んじて憂え、天下の楽しみに遅れて楽しむ」・・万事、民衆より先に心配し、楽しむのは誰より後になさい・・

兵陽楼記/范 仲淹(はん ちゅうえん)

四字熟語でいう「先憂後楽」であるが、先般の政治家のお偉方は、「先楽後憂」である由・・と指摘されておられる・・

高級接待を受けた官僚の例えとは異なるが、何事に於いてもトップとしての心構えとして肝に銘じておきたい「ぶらっと山歩」でした。